

ボランティア活動「楽寿号に乗って」を読んで

中学校の道徳の教科書に目を通して見た。今ごろになって、孫が中学に通うようになったからというわけではない。年金や自分の資産だけで、生活費を稼がないで生きているシニアの世代として、医療費は、わずか一割負担で健康を維持している身分で、社会参画ということと、自分の生きがいと同時に子どもたちの将来のことを考えてみた。

新型コロナウイルス感染症の蔓延で一番苦勞しているのは、自粛生活を強要され生活の糧が得られなくなった人たちや、なんといっても医療従事者だろう。感染のリスクを冒して立ち向かう医療従事者には、有難く感謝の念に堪えない。

社会経済の発展ということと、人の安全ということとは、人類の普遍的な活動の両輪である。コロナ感染症への対策として、Go Toキャンペーンと自粛の要請が両輪と言われているが、経済活動には常にリスクは付きもので大きな投資が行われる。そして貧困、病気や老人介護などの対策としての医療福祉活動と経済活動とは、常に車の両輪として回っているのである。

中学校の教科書「新しい道徳」(東京書籍発行)に書かれている『楽寿号に乗って』を中学生はどのように読んだか、次のような興味深い意識調査の結果が示されていた(数値は概算値)。ある老人ホームの送迎バス「楽寿号」に乗って、夏休みに子どもたちは老人ホームでボランティア活動をした。看護師さんのリハビリ活動のお手伝いを経験する。お年寄りの世話をすること、話を聞いてあげることの大切さを体験して、今後もボランティア活動をしていきたいと綴っている。

Q1. あなたはボランティア活動を試してみたいと思いますか？

はい・・・50%

いいえ・・・50%

Q2. あなたは今までにボランティア活動をしたことがありますか？

はい・・・80%

いいえ・・・20%

Q3. ボランティア活動の目的は何だと思えますか？

社会をよりよくするため・・・50%

人に喜ばれるため・・・20%

自分の人生を豊かにするため・・・15%

困っている人を助けるため・・・15%

Q4. ボランティア活動に参加する場合の心構えについての意見項目

最後までしっかりとがんばる

人のためになることをする

感謝の気持ちで取り組む

自主的に取り組む

ボランティア活動を試してみたいという子は半数の50%であり、かならずしも意欲が十分高いとはいえない。しかし83%が活動をしたことがあると答えている。学校の活動を通じての結果であろうが、しっかりした意識を持っている。社会の一員として、共同生活を営み積極的に関わろうとする意欲が重要である。経済発展やスポーツ、娯楽に目が行きやすいが、医療福祉の活動が社会を形成する上で、より高く評価されてしかるべきなのである。

われわれシニアの世代も同様な意識を持ち続けることが、かけがえのない命を生きる上で欠かせないことである。